



ゴロッケーの普及に貢献 阿知良 信夫さん

あちら・のぶお
希望ヶ丘在住。

長年にわたり北広島市ゴロッケー協会の役員を歴任。市のスポーツ振興に貢献したことを認められ、令和元年度スポーツ功労賞を受賞した。北広島市老人クラブ連合会の事務局長も務めている。

北広島発祥のスポーツ

皆さんは、ゴロッケーという北広島発祥のスポーツをご存じだろうか。昭和48年に市職員が考案。クロックゲーにゴルフの楽しさを足してできたもので、当時3000人の競技人口がいた。現在、普及しているパークゴルフが誕生する10年前のことだというから驚きだ。

阿知良信夫さんは考案された時期から両親と夫婦、子どもたちの親子3代で楽しんできた。ゴロッケーの魅力について「みんなで和気あいあいとおしゃべりしながらコースを回れることです。たとえ失敗しても笑い声が聞こえるくらいなんです」と話してくれた。

ゴロッケー協会

平成7年4月、ゴロッケーの普及と発展のために北広島市ゴロッケー協会が設立。阿知良さんは設立当初から携わり、事務局長を務めている。当時150人ほど会員がいて運営が大変だった。平成25年まで17年間事務局長を務め、一度事務局長から離れたが、再び平成30年から事務局長を務めている。

長年、ゴロッケーの普及に貢献したことを認められ、令和元年度市のスポーツ功労賞を受賞した。

ゴロッケーの楽しさを知ってほしい

「私は一度役員を離れ、また事務局に戻ったのですが、今は会員がコースの整備など、なんでも協力してくれます」とうれしそう。さらに多くの方に、ゴロッケーの楽しさを知ってもらいたいと考えている。

充実した毎日

阿知良さんは北広島に昭和34年から住んでいる。毎朝、家庭菜園の手入れをしたり、収穫したりするのが日課だ。その後ゴロッケーをしたり、パークゴルフをしたりして体を動かしている。とても健康的で一日が充実している。

昨年からの新型コロナウイルス感染症の影響でコースが閉鎖され、活動ができなかった。仲間とゴロッケーができず寂しかったそう。すぐに始められるように、体力維持のため近所でウォーキングをした。やっとコースを回ったり、試合ができるようになったって喜んでいる。

これからも、ゴロッケー普及のために頑張ってほしい。



ゴロッケー大会の様子